

行事 鳥海山セミナー(入場無料) 6月17日(日)午後1時半～「カダーレ」(チラシ参照)
研修会

- (1) 山形県側の鳥海山史跡の探訪 — 最古の「鳥海山」鰐口銘とバイカモを訪ねる —
7月7日(土)9時 由利本荘市役所集合…参加費2千円か? 次号で詳細を確認
コース: 吹浦大物忌神社～丸池～牛渡川～昼食～蔵岡大物忌神社～杉沢熊野神社～酒蔵
- (2) 写真講座「デジカメ入門」 会員30名・一般50名まで
9月30日(日)13時「カダーレ」自然科学学習室にて
講師: 八柳吉彦氏(二科展審査員) 資料代300円

2月4日(土)に行われた鳥海山の会総会の講演は東海林晃さんと須田高さんの2本でした。
以下は東海林さんのもの、写真提供も東海林さんです。(須田さんの分は次号で紹介します)

鳥海山矢島口は逆峰修験の道

晃の鳥海山ノート「鳥海山 その長い歴史の中で…」から抜粋 矢島町 東海林 晃 氏

鳥海山修験の祖 にじょうしようにん 仁 乗 上 人 は京都醍醐寺三宝院(真言宗・逆峰)の役僧。南北朝時代後期、矢島から登頂。その後、木境に修験道場を開き生活。1391年(明德2年)「鳥海山大権現縁起」を著述(県立博物館蔵)矢島から鳥海山頂までのコース・修験との関わりを記す。

きざかい 木 境—ブナ原生林(神仏の地)入口にあたり華立(現、花立高原・里山・里地)との境界地であった。昭和30年までブナの原生林があり、開山堂(開山神社)木境薬師堂(鳥海山木境大物忌神社)火宿堂(修験場)があった。(神社の位置: 鳥海山二合目 標高510m)

上人は晩年、鳥海町笹子に移り住み、ひのと 丁 岳から灌漑用水を引き、のやけ 野 宅地区の農業発展と定着に尽くした。上笹子の下 にてのみや 宮 神社に祀られる。

「鳥海山大権現縁起」

717年(養老元年)山頂お堂(龍頭寺)の本尊薬師如来は鳥海山中央火口丘にある火口湖「瑠璃之壺」から湧出したもので、松岳二郎氏光なる人が見つけ祀ったという。

850年(嘉祥3年)役行者の教えを継ぐ比良衛・多良衛兄弟*が矢島道を開山した。木境開山神社に祀られている。*美濃国土田村出身・矢島荒沢村に定住、土田姓の総先祖となる。

870年(貞観12年)聖宝尊師(後の理源大師)が矢島(津雲郷)から登山再興した。聖宝尊師が京都に醍醐寺(真言宗総本山)を創建したのは874年、登山の4年後である。

縁起に記された山頂の様子は

山の絶頂(鳥海山外輪山の頂上)は七高山と号すなり。(中略)そこから(外輪山内壁を)西に下りると左には瑠璃之壺があり、右には御躰が30m余りで御尊体が赤色の不動明王(不動岩)が西向きに立っておられます。天の御堂(薬師如来が住まわれるお堂)を龍頭寺といいます。その場所は龍が三巻半とぐるを巻いた形なので、龍頭寺といい、即ち鳥海山の寺号です。山の名を蛇之口といいます。お堂に安置する御前立は日光菩薩・月光菩薩・十二神将であり、ご本尊はもったいなくも世界の主、瑠璃光如来(薬師様)であります。……

この文章に記された山頂は 1801 年(享和元年)の新山噴出となる火山活動で中央火口丘荒神台地の様子は一変し、縁起に記されていたすべてが崩壊埋没し消失した。それまで養老元年以来 17 回の火山活動を通して火口丘(荒神台地)の様子が一変するほどの大事はなかった。(養老以前の活動は 3 回、姉崎岩蔵先生) ※奇しくも新山噴出(1801 年 享和元年)の前年にあたる寛政 12 年(1800)に「新山形成前の頂上鳥瞰図」として山形県「飽海郡誌」に残されている。

外輪山の最高地点「七高山」の意味は

お釈迦様の前の 7 人のホトケ=過去 7 仏を拜む場所が七高山。鳥海山の本尊薬師如来信仰に由来する。七仏薬師法の霊場として開かれた平安時代の七霊山(七高山)に見



立てて命名されたものと見られる。平安時代の七高山：近江国—比叡山・比良山、美濃国—伊吹山、山城国—愛宕山、大和国—金峰山・葛城山、摂津国—神峯山(かぶら山)

縁起に記されている七合目*御田(1424m)は鳥海山の神仏の田んぼ。五穀豊穰を祈り、農作の出来ばえを占った。集落の代表が参拝し、昔はここで豊作祈願の「虫除け札」をもらった。

江戸時代生駒藩になってからか、春の虫除け祭り(7月7~8日)秋の収穫感謝祭(10月19~24日)とも二合目木境薬師(鳥海山木境大物忌神社)で行うようになった。木境薬師は生駒家の祈願所でもある。(*東海林氏は講演の中で「おた」。以前、矢島町役場に確認したら「おだ」とのことだった)

「鳥海山大権現縁起」には次の拝所(名所)が記されている。()説明は晃記
箸之王子(上針ヶ岡 登山道第一の拝所、薬師如来と大物忌神が祀られていた。道者はここで垢離を取り、身を清め神仏を拜んだ後、木境への山入りをした。食生活の感謝を司る神。里山の入口に設置されていた。) ※「箸」4~8世紀に大陸から伝わり食事に用いるようになった。食料は神仏からの頂きもの。人が食する全ての物は生命あるもの。人はその命を食し生きている。「いただきます」の挨拶はその命を頂く感謝の気持ち。食物を口に運ぶ箸は神の心と人の心を結ぶための道具。

華立(花立 四季の草花が咲く原野。神仏の祭壇を飾る花の園。闕伽だな)

深山(木境 里山と天然林の境。新山=木境薬師(大物忌神と合祀)・本山=開山神社・火宿=修行道場の3堂があった。女性入山はこの地まで。)

山伏長根(木境から尻高森に続く尾根。途中に安養清水がある。)

八刀長根(八葉之蓮台の俗称。連なる山々の上にある不思議なくらい開けた台地・高野山のこと・

曼荼羅の里。ブナ谷地周辺の台地と思われる)

三十六童子(真言宗の根本仏大日如来の化身である不動明王の使者として私たちを守ってくれる36人の童子。不動尊を信仰礼拝する者を守護し長寿のご利益を与える。*不動経)

駒の王子(牛馬繁栄繁盛の神。少年の日の聖徳太子)

十六善神(般若経の誦持者を守護する十六夜叉神、須弥山頂の帝釈天に仕える四天王[持国天-東、増長天-南、広目天-西、多聞天(毘沙門天)-北]と十二神将のこと)

善神長根(十六善神の住む長根、善神森から善神沼を越え祓川第2駐車場までの長根)

鬼岩(手長・足長の鬼が神罰を受け岩となる、第2駐車場脇)

鬼之倉(祓川駐車場・展望台・飯ヶ森から北側急斜面の山一円)

龍之馬場(龍ヶ原、龍は天と地を往来できる神仏の使い)

飯森=耕作様之山(飯ヶ森のこと)

由留義之壺(祓川伏流水の湧口)

垢離之池(心身の汚れを洗い身を清める祓川の池)

払い川(垢離之池から続く川、天界へ通じる出発地、現祓川)

懺悔坂(タツラ坂、日頃の精進の度が判別されるきつい坂)

御田・御種池(神仏の御田、万物出生の池、作物の豊作を祈念し様子を占う所)

七ッ釜(七つの釜に溜まる清流のように食物が豊富に満たされることを祈念する所)

行者戻(行者も引き返したくなるほど足元の悪い急坂が続く所、御田～大雪路)

垢離之薬師(氷の薬師、山頂に臨むために改めて身を清める場所、薬師如来が手洗いに使用しているといわれる「渤汰の滝」があり、両側に「金加羅・制多迦」不動二童子像が立っていた)

小渡・大渡(氷の薬師から舍利坂に向かうときに渡る小・大二つの雪溪がある所)

舍利坂(岩石の崩壊した砂利・小石を五色の仏骨に例えることができる所)

七高山(平安時代の薬師信仰七霊山に由来し命名した外輪山の最高地点)

瑠璃之壺(荒神火口丘にあった火口湖、水は北壁「不動沢」を流れ白雪川源流になる)

不動明王(外輪山内壁にあった御長十丈余の赤岩)

龍頭寺(日光菩薩月光菩薩と十二神将を供にした薬師如来を祀る山頂のお堂名)

蛇之口(お堂のある山名=中央火口丘、荒神岳の台地部分)

— 記録に「赤滝」・「賽の河原」は表記なし —



～ 平成24年度総会での承認事項から ～

(1) 事業計画

- 総会開催 (H24. 2. 4 由利本荘市「安楽温泉」)
- 研修会・自然観察会(写真撮影会)
 - ◇山形県側の鳥海山史跡の探訪
 - ◇デジカメ写真研修会
- 会報発行 随時
- HP(ホームページ)の更新 随時

(2) 会務計画

- 事務局会議・運営会議 随時

(3) 収支予算書

- 収支予算

歳入予算額	411,000円
歳出予算額	<u>411,000円</u>
差引予算額	0円

歳 入

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	説 明
繰越金	105,127	84,038	21,089	前年度からの繰越金
会 費	220,000	260,000	△40,000	総会費 100,000 円 (4,000 円×25 名) 年会費 120,000 円 (2,000 円×60 名)
寄付金	5,000	5,000	0	
雑 入	80,873	130,962	△50,089	研修会参加料 60,000 円 (2,000 × 30 人) 冊子代 20,000 円 (1,000 × 20) 預金利息 873 円
計	411,000	480,000	△69,000	

歳 出

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	説 明
会議費	100,000	140,000	△40,000	総会費 (100,000 円)
事業費	96,000	135,000	△39,000	総会資料等 6,000 円 研修会 (講師謝金・ポスター・会場使用料) 観察会 (バス代・保険料等) 50,000 円 会報印刷代 10,000 円 (2,000 円×5)
積立金	150,000	140,000	10,000	会誌発行積立金
通信費	550,000	550,000	0	切手代・HPレンタルサーバー代・振込手数料
事務費	10,000	10,000	0	封筒代等
計	411,000	480,000	△69,000	

(4) 役員体制

- 顧問 佐々田亨三・安藤武俊 ○会長 荘司昭夫 ○副会長 大井建史・小川征司・須田 高
- 事務局長 多田 厚 ○会計 佐藤助雄 ○監事 三浦清一・三浦俊雄
- 運営委員
 - ◇事務局 (事業等の調整と役員会の案内) ○多田 厚・佐藤金市・三浦良隆・須田 高
 - ◇会計 (会計執務) ○佐藤助雄
 - ◇研修班 (自然観察会と研修会の計画) ○岡田淳一・斎藤 悟・須藤秋男・石川邦男
 - ◇会報班 (会報とホームページ担当) ○今野幸男・茂野正信・多田厚・牧之内豊 ※三役も参画
 - ◇会誌班 (会誌の企画・編集) ○須田 高・三浦良隆・須藤秋男・斎藤 悟・岡田淳一

【会費の納入のお願い】

24年度以前の会費を未納の方は、下記に振込まれるか、知り合いの役員にお渡しください。

(口 座)

秋田しんせい農協本荘支店 普通預金 店舗番号 3825-009
口座番号 0011172 (名義) 鳥海山の会 多田 厚

(編集後記)

不安定な季節が続く今日この頃ですが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。会員の皆様に会報13号をお届けいたします。会報が大変遅れてしまいましたことを深くお詫び申し上げます。今年度から新役員を加えた体制でスタートしますが、事業あるいは会報等に対するご感想やご意見等がありましたら、どしどし事務局までお寄せください。

(事務局) 〒015-0332 由利本荘市森子字八乙女下123 多田 厚

(TEL) 0184-53-3453 (メール) mtc.ayu@gmail.com